

大成・中村・渡辺特定建設工事共同企業体

■工事概要

工事名	総合スポーツゾーン東エリア整備運営事業
場 所	宇都宮市今宮 4 丁目 14-5
工 期	平成 30 年 4 月 2 日～令和 3 年 1 月 31 日
建物概要	観覧場（体育館・屋内水泳場） RC 造+S 造 地下 1 階、地上 4 階 軒高 21.0M、最高高さ 22.7M



※共同企業体 HP より

栃木労働局では、令和元年 7 月 1 日、栃木国体の会場となる、宇都宮市今宮の「総合スポーツゾーン東エリア整備運営事業」(※)の工事現場に出向き、全国安全週間における労働局長安全パトロールを実施しました。その際、施工業者である大成・中村・渡辺特定建設工事共同企業体（以下、「JV」という）統括安全衛生責任者である寺田健一工事長、松岡理、青木茂浩、安部智章各作業所長らから、安全のための措置について説明を受けたほか、熱中症予防対策、働き方改革についての取組状況についても話を聞きました。

(※) メインアリーナ、サブアリーナ、屋内水泳場、マロニエテラスを整備中。当日は、①メインアリーナ 2～3 階 躯体工事、②サブアリーナ 1 階 躯体工事、③屋内水泳場 3～4 階 躯体工事、④マロニエテラス 1 階 躯体工事を実施中。

ポイント

- 危険の芽を排除するために、各レベルで、安全・環境パトロールを実施。
- 災害事例集、VR（ヴァーチャル・リアリティ）等を用いて、安全教育を徹底。
- 熱中症危険指数を見える化、製氷機、冷水器、熱中症対策自販機等を設置、空調服を配布など。
- 生産性向上のため、タブレット端末、工事黒板アプリ、調整会議サポートシステム等を活用。

<危険の芽を排除するために、各レベルで安全・環境パトロールを実施>

- ・ JV スポンサー企業（大成建設（株）等）本社の役員・幹部社員によるパトロールから、他現場作業所長、職長会によるパトロールまで、各レベルで、安全・環境パトロールを実施し、多くの者の目で現場を巡視することによって、危険の芽の排除に努めている。

JV スポンサー企業本社の役員・幹部社員によるパトロール	3 カ月に 1 回程度
同関東支店の役員・幹部社員によるパトロール	2 カ月に 1 回程度
同関東支店の安全・環境推進室職員によるパトロール	毎月
同関東支店の他現場作業所長による交換パトロール	毎月
現場作業所長によるパトロール	毎日
主要な事業者から組織する協会によるパトロール	3 カ月に 1 回程度
全協力事業者によるパトロール	毎月
職長会による安全・環境パトロール	毎週 2 回



職長会活動等の説明を受ける浅野栃木労働局長（左）

<災害事例集、VR（ヴァーチャル・リアリティ）等を用いて、安全教育を徹底>

- ・ 起こりうる災害を未然に防止するために、KY活動（危険予知活動：Kiken Yochi 活動）にも力を入れています。似たところのある既にご起こった災害事例を見易いかたちで、いつでも手に取って確認できるよう、整理して掲示しているほか、デジタルサイネージと呼ばれる電子黒板で、災害事例等を放映するなど、安全教育に力を入れています。
- ・ 作業所でも、玉掛者・誘導者等には、その旨大きく記載したチョッキを着用させたり、作業通路が見える化したり、手すりを設置した上で安全ネットも設置するなど2重の安全対策を行い、より安全な措置や安全を先取りした取組を行うことで災害防止の徹底を図っています。

<熱中症危険指数が見える化するなど、熱中症対策を徹底>

- ・ パトロール当日は、小雨模様で、気温も30度に満たない状況でしたが、屋外作業が多いだけに、夏に向けて熱中症予防対策にも力を入れています。熱中症予報表示板を設けて、当日の熱中症危険指数が見える化する大きく掲示し、注意を呼び掛けているほか、指数に応じて涼しいところで休憩を取る頻度を増やすなど、指数を活かして作業を行っています。また、冷蔵庫・製氷機や冷水機を設置したり、現場休憩所を設置し塩飴を常備するなど、対策を徹底しています。さらに、工事担当者には、ファン付きの空調服を配付しています。



熱中症予報掲示板

⇒熱中症を理解する見える化

熱中症危険指数が見える化

<生産性向上のため、ICTツールを活用>

- ・ 建設事業については、時間外労働の上限規制の適用は、2024年4月1日からとされていますが、健康管理のために、作業所閉所による休日の確保や、独自の目標による残業時間の縮減など、働き方改革に向けた取り組みを開始しています。
- ・ 生産性向上のために、ICTツールも活用しています。例えば、タブレット端末で図面を確認できるようにしました。また、工事写真撮影のために使っていた黒板を工事黒板アプリによってデジタル化したことにより、デジカメや黒板を持ち歩いたり、写真撮影ごとに書き直したりしなくても、タブレット端末だけで全てが済むようになりました。また、調整会議サポートシステムを導入したことにより、職長がスマートフォンで入力した翌日の作業内容が工事打合せ書に反映されるようになるなど、資料作成の手間がなくなり、効率がアップしています。

<さらに・・・>

- ・ 建設業界は、人材不足に悩んでいます。安全確保はもちろんのこと、快適な職場づくりや働きやすい職場づくりに向けた取組が求められる中、女性専用休憩所やトイレ（ウォッシュレット）等の整備にも配慮しています。

■■パトロールを終えて■■

全国安全週間の機会に、栃木労働局として、栃木県を代表するような大規模建設工事現場を訪問し、災害防止対策の取り組み状況を確認しました。墜落・転落災害の防止や熱中症予防対策のほか、元受け事業者の安全管理の状況も確認しました。現場では、このあと、高所作業も増えますが、引き続き、災害防止に取り組んでいただき、災害ゼロを目指してください。

＊ ＊ 大成 ・ 中村 ・ 渡辺 特定建設工事共同企業体の皆様、これからもご安全に ＊ ＊

栃木労働局労働基準部(部長 藤中基之、健康安全課長 井口恵貴、地方安全専門官 山田和昭)